

## 市民公益活動団体 WEB アンケート 結果

### ■ 目的

今後、横須賀市において厳しい財政状況が想定されるなか、安定的に確保できる予算の範囲内で、市民公益活動を長期的に下支えできる仕組みづくりについて、検討する必要がある。

手始めのステップとしては、現在活動している団体や個人が、活動を継続するにあたりどのような部分に課題を抱えているかを明らかにし、市ができる支援策を探ることである。

目指す次のステップとしては、発展的な将来像として、公益活動やボランティア活動の経験がない市民を、一人でも多く巻き込むことができるよう、活動を活性化させることである。

**手始めのステップにとりかかるにあたり、現在活動している団体に対する意識調査の方法として、市民活動サポートセンターに登録している団体へ向け、WEBによるアンケート調査を実施した。**

- **実施期間** 令和4年1月5日～1月19日
- **調査対象** 市民活動サポートセンターからのメルマガ登録をしている方
- **調査方法** WEB上で実施  
アンケートの配信はメルマガに掲載
- **配信件数** 497件  
(開始日においてメルマガ登録のあった件数)
- **回答数** 37件(回答率7%)

# 質問内容(1/2)

質問1：現在活動をしている者（団体）の振り分け  
質問2：活動を継続していない理由  
質問4～質問8：活動者（団体）のプロファイリング

いいえ

## 質問1

現在、公益活動・ボランティア活動  
をしていますか。 **はい・いいえ**  
※回答により次の質問が変わる

はい

## 質問4

活動は、どのような種類のもの  
ですか。

- 1.保健、医療または福祉の増進を  
図る活動
- 2.子供の健全育成
- 3.社会教育の増進
- 4.まちづくり
- 5.学術、文化、芸術又はスポーツ  
振興
- 6.環境保全
- 7.国際協力
- 8.人権・平和
- 9.地域安全
- 10.その他

(→ 質問5 具体的内容(自由記載))

## 質問2

なぜ、活動をやめていますか。

- 1.仕事や介護・子育てなどとの  
時間の両立が難しい
- 2.体調をくずした、体力が及ばない
- 3.必要性が感じられなくなった
- 4.楽しくなくなった
- 5.新型コロナウイルス拡大の影響
- 6.その他 (回答後は 質問3 へ)

## 質問3

質問2で「6. その他」を選択した方に質問  
です。具体的な理由を教えてください。

⇒活動をやめている方に対する質問は  
以上で終了です。

## 質問6

活動頻度を教えてください。

- 1.月 1～2回
- 2.月 3～4回  
(約週1回程度)
- 3.週 2～3回
- 4.週 4～5回
- 5.週 6～7回
- 6.年に1回～数回程度
- 7.不定期
- 8.それ以外

## 質問7

1回あたりの活動時  
間を教えてください。

- 1.数十分～1時間
- 2.1～2時間程度
- 3.2時間～半日程度
- 4.半日～1日程度
- 5.それ以外

## 質問8

活動者のご年代を教え  
てください。  
(複数回答可)

- 1.10代
- 2.20代
- 3.30代
- 4.40代
- 5.50代
- 6.60代
- 7.70代
- 8.1～7以外
- 9.回答したくない

質問9へ続く

## 質問内容(2/2)

### 質問8から

#### 質問9

公益活動をするうえで一番困っていることは何ですか。最も当てはまるものを教えてください。

1. 資金
2. 運営スタッフの人手不足
3. 参加者への広報の方法
4. 活動場所
5. 家族など、周囲の理解
6. 特段、困っていることはない
7. その他

(→ 質問10 具体的内容(自由記載))

#### 質問11

あなたの団体に活動資金が入るとしたら、どのような使い方をしたいですか。

1. 補助スタッフ等に対する謝礼
2. 交通費
3. チラシ作成などPR費用
4. 備品購入
5. その他

(→ 質問12 具体的内容(自由記載))

#### 質問13

現在の活動は、新規参加者を増やすなど、規模の拡大をしたいですか。

1. はい
  2. いいえ
- (→ 質問14 理由(自由記載))
3. どちらとも言えない
- (→ 質問15 理由(自由記載))

#### 質問16

あなたの団体の活動と類似の活動や、関連する活動をしている団体とのマッチング(団体同士がつながるきっかけ)ができるとしたら、どのような方法を望みますか。

1. イベントなど、交流の場
2. 市民活動サポートセンターによる仲介
3. WEB上で団体情報を提供し呼びかけ
4. SNSなどの利用
5. 他の団体との交流は望んでいない
6. その他

(→ 質問17 具体的内容(自由記載))

- 質問9：活動にあたり困っていること
- 質問11：活動資金の使い道
- 質問13：規模拡大についての考え方

- 質問16：つながりについて
- 質問18：活動の継続について
- 質問19：活動のモチベーション

#### 質問18

現在の活動を自分が辞める事になった場合、誰かに引き継いでもらいたいですか。

1. はい
2. いいえ

#### 質問19

あなたはなぜ、公益活動をしていますか。(複数選択可)

1. 誰かの役にたたい
2. 地域の課題を解決したい
3. 健康づくりや自己研鑽のため
4. 楽しいから
5. その他

(→ 質問20 具体的内容(自由記載))

#### 質問21

市民活動サポートセンターに期待することを教えてください。

#### 質問22

その他、市民公益活動をされるにあたって、ご意見・要望などありましたらご記入ください。

# 調査結果 (1/4)

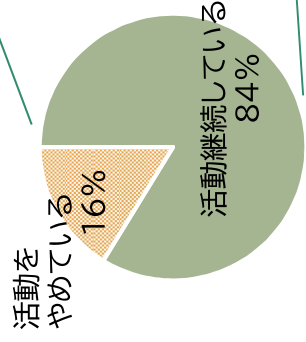
- 回答者の背景、活動している内容について

<b>回答者の背景</b>	
質問1に対する回答	
公益活動・ボランティア活動をしている方	31人
活動をやめている方	6人
<b>活動をやめている理由</b>	
質問2・3に対する回答	
新型コロナウイルス感染拡大の影響	4件
仕事や介護	2件

■ 市民活動サポートセンターのメルマガ登録をされている方のなかにも、現在活動をやめてしまった方が16%存在する。

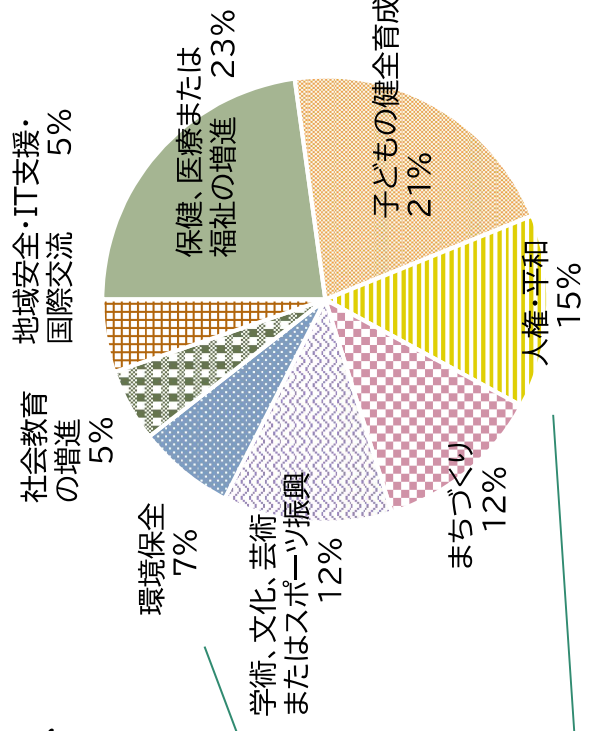
理由としてはコロナによるものが多く、次いで介護や仕事により時間の捻出が厳しいというものである。

選択肢にあつた、「必要性が感じられなくなった」「楽しくなくなった」という回答はなかつた。



<b>活動の種類 (複数回答可)</b>	
質問4に対する回答	
保健、医療または福祉の増進を図る活動	13件
子どもの健全育成	12件
人権・平和	8件
まちづくり	7件
学術、文化、芸術又はスポーツ振興	7件
環境保全	4件
社会教育の増進	3件
地域安全・IT支援・国際交流	各1件
<b>計</b>	<b>57件</b>

<b>活動の内容 (具体的には)</b>	
質問5に対する回答	
健康増進のためのウォーキング	など
ひとり親家庭支援	
障がい者支援	
高齢者施設慰問	
ガールスカウト	
少年サッカー指導	
不登校児支援	
子ども(地域)食堂	
パソコン、IT化支援	
英語パブリックスピーチ	
里山保全	
清掃活動	
戦争の実体や平和の啓発	
登校児への挨拶運動	
児童国際絵画展	



■ 活動の種類としては、保健や子ども関連など、福祉的な観点からの活動が多い。

しかしそれ以外にも、人権・平和などの教育的観点からの活動、まちづくりや環境保全、地域活性化やスポーツ振興など、活動の幅は多岐に広がっている。

# 調査結果 (2/4)

## 活動団体の実態について

質問6に対する回答

活動の頻度	回答数
月1～2回	14件
月3～4回(週1回程度)	12件
不定期	2件
週2～3回	1件
週4～5回	1件

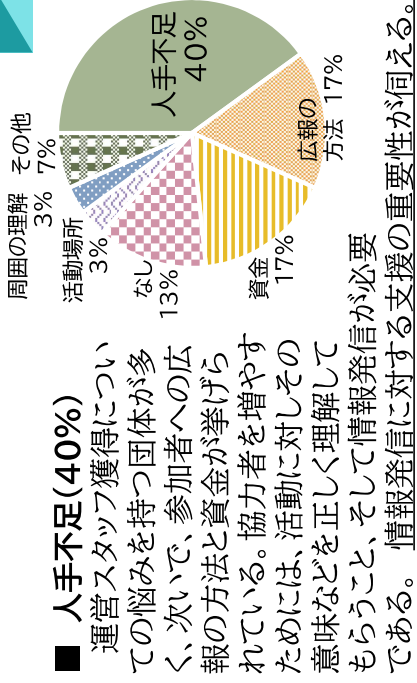
質問7に対する回答

### 1回あたりの活動時間

1～2時間程度	15件
2時間～半日程度	9件
半日～1日程度	5件

■ 無理なく続けられる  
頻度・時間が多い

週に1回程度まで、かつ、1度あたりの活動が1～2時間程度であれば、負担を感じることなく活動に参加してもらえます。



### 活動するにあたり困っていること

質問9・10に対する回答

運営スタッフの人手不足	12件
参加者への広報の方法	5件
資金	5件
なし	4件
活動場所	1件
家族など周囲の理解	1件
その他	1件

・いちどの活動がひとりで大変  
・活動(子ども食堂)で使用するものの保管

質問11・12に対する回答

### 活動資金の使い道

チラシ作成などPR費用	7件	30%
補助スタッフへの謝礼	5件	22%
交通費・備品購入	5件	22%
その他	6件	26%

・活動拠点を持つイベント開催  
・よくわからないなど

### PR費用(30%)

補助スタッフへの謝礼、交通費・備品購入(各22%)から、資金は活動主催側の人件費等、運営にかかわる費用に割きたい旨が伺えるが、それよりわずかに多く選択されたのはPR費用であり、活動への理解や、参加者・スタッフを増やすためにPRに力を入れたいという希望が伺える。

### 退職後の年代が最も多い(35%)

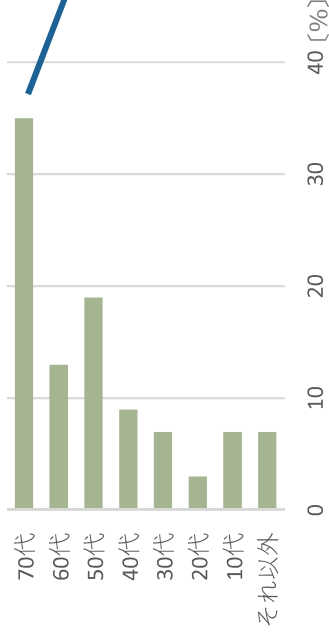
次いで多いのは子育て等を卒業する50代・60代である。

仕事や子育て、また学業や部活などに忙しい人生のライフステージにある方に活動してもらいたい場合は、特段のモチベーションや、手軽に参加できる環境づくりが必要と言える。

### 活動者の年代

質問8に対する回答

70代	11件	35%
60代	4件	13%
50代	6件	19%
40代	3件	9%
30代	2件	7%
20代	1件	3%
10代	2件	7%
それ以外	2件	7%



# 調査結果 (3/4)

## ■ 活動団体の考え方、方向性

### 団体の規模拡大について

質問13に対する回答

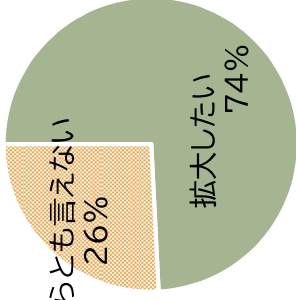
**拡大したい (メンバーを増やしたい) 23件**  
**拡大は望んでいない 0件**  
**どちらとも言えない 8件**

■ **団体の規模を拡大したい(74%)**  
 多くが、活動団体の規模拡大を望んでおり、拡大を望まないという声は0%であった。  
 一方で、「どちらとも言えない」という声もある。活動の内容によっては、規模の拡大ばかりが団体にとって活動の発展につながるものばかりではないということである。

質問15に対する回答

### 「どちらとも言えない」理由

- ・福祉や環境の活動については専門知識が必要であり、安易に人を募集できない。
- ・人が多すぎても大変、活動は人が増えれば良いというものではない。
- ・規模の拡大はせず、既存の事業を継続しながら活動に対する理解を深めたい。
- ・増えても、高齢者ばかりで後継者が育たない。



### ■ イベントなど、交流の場 (58%)

団体どうしのマッチングに関しては、イベント会場などで直接交流することに希望が一番多かった。それ以外の方法としては、市民活動サポートセンターによる仲介や、WEB・SNSを利用したものであった。イベントは、日時や場所、場合によっては人数等の制約がどうしても発生してしまうため、それらに左右されないWEBやSNS利用の利点を最大限に活かし活用することに目を向けることにより、マッチングについての可能性が広がる。

### ■ 活動を引き継いでもらいたい(86%)

活動については、自分が活動できなくなった場合でも、誰かに引き継いでもらうことを希望している。活動している人が、公益活動についてその意味を深く受け止めていることの現れと言える。

### 団体どうしのマッチングで希望する方法

質問16・17に対する回答

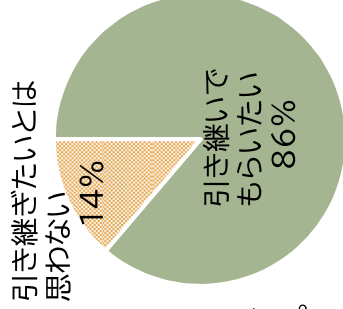
**イベントなど、交流の場 18件 58%**  
 市民活動サポートセンターによる仲介 3件 9.5%  
 WEB上での情報提供、呼びかけ 3件 9.5%  
 SNSなどの利用 3件 9.5%  
 他の団体との交流は望んでいない 1件 4%  
 その他 3件 9.5%

- ・近隣で同様の活動をしている団体の情報収集ができない
- ・自分の団体の活動の場に直接訪問してもらいたい
- ・よくわからない

質問18に対する回答

### 活動の継続についての考え方

**誰かに引き継いでもらいたい 25件**  
**引き継ぎたいとは思わない 4件**



# 調査結果 (4/4)

- 活動の原点について
- 団体をとりまく環境や活動などに対し、望むことなど

質問19に対する回答

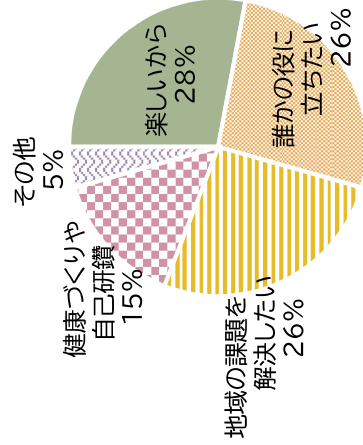
## 活動のモチベーション

《あなたは何なぜ、公益活動をしていますか》

理由	件数
楽しいから	19件
誰かの役に立ちたい	18件
地域の課題を解決したい	18件
健康づくりや自己研鑽のため	10件
その他	3件
・使命感（自分は大変な思いをしたので、次世代のため）	
・子どものころから団体に入り続けているから（ライフワーク）	

### ■ 活動は、「楽しいから」している

どのような活動であっても、人を動かすものは「楽しい」時間や「面白そう」という期待感が大きい。また、誰かの役に立ちたいという奉仕の気持ちや、地域・自分たちをとりまく環境を少しでも良くしたいという思いから始める人も多い。この質問の意図としては、どういった思いを抱くと公益活動が自発的に起こるのか、少しでも活動の促進につながるヒントを得るためである。



## 市民活動サポートセンターに期待すること

質問20に対する回答

- ・美味しいコーヒーの自販機がありありがたい、飲食ができるようになると良い。
- ・登録団体が安心安全に発信できるような、守られている環境の場での意見交換ができるとう良い。HP上で、登録団体のみの情報共有ページがあると良い。
- ・他分野の団体と連携がとれるようサポートして欲しい。
- ・活動を行うなかで、課題が見つかったときの解決に繋がるアドバイス。
- ・情報の提供とコーディネート。
- ・活動団体の宣伝になるイベントの開催

質問22に対する回答

## その他意見・要望

- ・市役所の職員はもう少し積極的な協力をしてほしい。
- ・活動が公益性が認められるのであれば、市のHPや広報で紹介してもらいたい。特にない。
- ・のたろんフェアにより市内に多くの市民活動団体があることを知った。コロナの影響に負けず、今後多くの団体の活動が活性化することを願っている。
- ・各地域のコミュニティセンターは無料無線LANが設置されていない。
- ・20人以上集まれる場がない
- ・横須賀市民が元気がでる、市政が観光だけに重点を置くことなく、市内の方々の交流に市政（市税）を振り分けてください。
- ・資金調達ができるイベントが年2、3回あると良い。
- ・活動場所の安定的確保が難しく、場所取り合戦を繰り返している。公共施設の有料化は特に負担が大きいです。
- ・サポートセンターの市民活動への支援にはいつも助けられている。
- ・コロナ禍で各公共施設が使用できなくなった時に、会報の印刷サービスを利用させていただき、助かった。

## 概観

### ■ アンケートについて

市民公益活動ポイント制度が終了し、今後の市民の公益活動に対し、新たな支援策が必要になってくる。今後予想される、限られた財政状況のなか、ポイント制度のように、広く一般に「きっかけ」を呼び起こすようなものではなく、**目的や対象を絞り、確実に支援**が続く仕組みが必要と考える。

それにはまず、「現在活動をしている市民や団体」への支援に力を入れることにより、団体が、活動や規模の安定化を図り、ゆくゆくは行政による下支えがなくなるとも、団体独自で規模の拡大や継続、世代交代ができる仕組みが望ましい。

そのような理由から、アンケートの対象は活動をしている団体、特に、現在も活動を続けている団体に絞って回答を求めた。WEBアンケートを企画した背景としては、ひとつには、市民活動サポートセンターに登録している団体からの協力が期待できること、もうひとつには、WEBやSNSになじみのある団体は、これからの時代への対応力という点においてポテンシャルがあると捉え、期待を込めて行ったものである。

サンプル数としては多く集まらなかったが、選択式の回答だけでなく、自由記載部分についてもさまざまな回答をいただくことができた。

### ■ 結果について

活動団体の実態として読み取れることは、活動者の年代が高い傾向にあること、また、人手不足やPRの方法について悩みを抱えていることである。

団体の規模拡大については、必ずしも望んでいることではなく、メンバーを増やすにしても知識やスキルの面で条件があるなど、団体によっては事情を抱えている部分があるが、活動の継続性については、ほとんどの回答が、自分が活動できなくなった場合でも誰かに引き継いで活動を継続してほしいというものであった。

活動の原点となるモチベーションの部分においては、「楽しいから」「誰かの役に立ちたい」「地域の課題を解決したい」という回答で全体の8割を占めていた。

活動に対する理解やその意義、楽しさなどについて、効果的に広報することで、若い世代の参加や、資金調達につながる可能性がある。

市ができる下支えの方法としてどのようなことができなのか、この結果を参考とし、これからの時代に対応した、より良い市民公益活動を下支えする仕組みについて、議論を重ねていきたい。